

令和 5 年度第2回茅野市DX推進協議会 会議録

日時 令和 5 年9月6日(水) 18 時 00分～

会場 茅野市役所 7 階 705 会議室

(出席者)

DX 推進協議会：濱田会長、寺澤副会長、原田委員、吉澤委員、竹内委員、百瀬委員、熊谷委員

事務局：田中、牛山、須田、藤澤、伊藤、光内弁護士

(欠席者)

DX 推進協議会：守屋委員

1 開会

2 市役所人事異動について

—事務局より8月 15 日人事異動により配属になった職員の紹介—

3 協議事項

(1) 構成員の交代及び役員の選任について 名簿、規約

—構成員の交代について濱田会長より説明—

- ・諏訪郡医師会長が細田医師から原田医師へ変わられたことに伴う交代
- ・茅野市金融団幹事の長野県信用組合支店長が徳武様から百瀬様へ変わられたことに伴う交代
- ・お二方からご挨拶を頂戴する。

○委員

70歳を超え、デジタルについていけるのか不安なところだが、デジタル化をどんどん進めていただきたいと考えている。

○委員

金融団幹事は4月から9月までで今月でまた変わってしまうがよろしく願いたい。資料を見る限り興味深いことをやられていて今後も参加していきたかったが、本日の話で吸収できることは吸収していきたい。

—副会長の選任について会長より説明—

規約の第5条で、会長が指名するということになっている。寺澤委員は副会長をやってらっしゃるが2名ということで、もう1名は以前、諏訪郡医師会長の細田様がやられてましたので引き続き医師会長の原田委員にお願いしたいがよろしいか。

～異議無く了承された～

—議事進行を会長に交代—

(2) 茅野市 DX 基本計画の骨子について 資料 1

—茅野市 DX 基本計画の骨子について事務局より説明—

・規約第3条に規定される DX 推進協議会の事業内容および DX 基本計画の策定に係る DX 推進協議会の役割について

規約第3条各号にて推進協議会の事業を規定しているが、第4号に DX 基本計画の策定に関することが規定されている。しかしながら、現在外部評価委員会において内容の検討を進めているところについては、本来の事業スキームにおいて外部評価委員会が事業内容についての評価を行う役割を担っていく中で評価する側の組織において統一的な評価の基準を定めることが今後の事業実施においても、スムーズではないかというところで、外部評価委員会において内容の方の検討をしていただいている。DX 推進協議会においては、計画の内容について確認、承認をいただく立場として関わっていただきたい。

・DX 基本構想および DX 基本計画の全体像について

基本構想において、DX を進めるため4つの柱、方向性について基本計画で定めることを規定している。DX 基本計画の内容としては、総論(DX 展開の考え方、DX 基本計画とは、地域 DX を安全に進める仕組みの四つの柱(ルール作り、意見の反映・参加の促進、学びの場の提供、データ連携)、地域 DX の推進体制、課題解決に向けた DX 化の手順)と各論(対象分野、実施事業・指標、ロードマップなど)となる。

・DX 基本計画構成(案)について

実際の DX 外部評価委員会での検討においてはまず総論について検討を行ったうえで、最終的に想いの部分を固めていくような検討スケジュールを予定している。

・各項目の記載内容および内容の方向性について

資料の内容としてはざっくりな内容ではあるが、今後の DX 外部評価委員会での検討としては、資料に記載の内容をより具体的にし、内容を埋めていくようなイメージ。

・DX 外部評価委員会の今後の検討について

スケジュール感としては資料のとおり、3 月までに総論の部分までの検討を行い、来年度頭(4月)のパブコメ、議会報告へ持っていく。検討方法は、今後月 1 回の定例会を基本とし、議論の加速という目的も含めてオンラインツールを活用していく。また、総論部分の四つの柱のうち、ルール作りとデータ連携の分野につきましては専門的な知識を要する項目になるため、専門分科会を設置して専門家等に内容の検討についても参加をいただきたい。検討の過程や方向性は随時 DX 推進協議会へ報告をしていく。

○委員

4ページ DX 基本計画の構成についてざっくりした構成ですけども、第 1 章第 2 章の

ところで「DX 基本計画の位置付け」を入れていただきたい。総合計画との絡みや行革とか、地域総合戦略との絡みがありますのでどういう位置付けなのかを入れてほしい。また DX の推進体制があるが、この計画の進行管理、評価はどうしていくか。事業化については外部評価委員会で評価するが、計画自体の評価と進行管理をどのようにしていくかを入れてもらいたい。

○委員

解説と補足をさせていただきますが、2ページ目の組織体制について、わたくしも推進協議会があり、外部評価委員会があるというのは昨年12月に議論してきたことです。国の方でこういう成り立ちにしないということではなくこういった形になっています。つまり、DXというのは人口減少化においてだれ一人取り残さない。今迄のDX化は勝者を生み出すような使われ方をしましたが、人口減少化のDX化は弱者や敗者を生み出さないという観点でアプローチしていきたい。

20年前パートナーシップのまちづくり条例を市民が集まって行政がサポートして作った取組がありましたが、そういった意味で市民代表に集まってもらって原案を練っているということで、今年に入って7回くらい開催している。市が与えて議論してもらうやり方ではなく市民の方から意見が出てきたものを行政がまとめて徐々に形にしていくという形である。

○委員

骨子というのは住民の声を集めてDX構想を進めていくんだよというものをまとめたものということで良いか。

○委員

計画自体の骨組みを説明した形。具体的に骨子というのは4ページからが具体的な骨子案となる。

○委員

実際に物事を進めていくときにはこの骨子に従っていかなければいけないということを今おっしゃったということか。

○委員

第1期の基本計画は少し特殊で、例えば基本構想では4つの柱が大切であるということしか言っていない。計画では、具体的にどういうルールにするか、市民から意見を集約するにはどういった方法を採用していくか、市民から出てきた課題をどういうふうに関をDX化し、どういう形にしていくかという、いわゆる製造工程を総論で書いていき、各論の方ではこの3年間、どういった分野から進めていくのかといった具体を書いていくということになる。第2期では第1期の評価をしていくとともに、第2期で各論は何をやっていくのかということになりますので、総論部分は特に修正等がなければ変

わることはない。

○委員

総論の4つの柱で書かれるのは、ルール作りをしていきたいと思いますということか、「ルール」が入ってくるか。

○委員

「ルール」が入ってくる。

○委員

データ連携についてもデータ連携基盤の整備をこうしていきますという具体が入ってくるとのことか。

○委員

そのとおり、特に都市 OS が入ってくる、そこにどういう風に接続して API 連携がされるときに何に配慮して安全性を担保していくのか、オプトイン方式かオプトアウト方式かといった安全性の問題が中心に入ってくる。

○委員

4つの柱で4つ文字が並んでいますけれども、もっと精査したほうがよろしいと思う。

○委員

ルールだとか、意見の反映方法だとか、学びの場づくりだとかということですね。答えを出していく。

○委員

そのとおり、その方がぱっと見わかりやすいのかなと思う。

○委員

私の方も DX 企画幹の須田医師から具体的な走っている話は聞いていたが、基本計画の骨子ということで委員の話もあって位置付けが分かりやすく、しっかりとした構成があることが頼もしく思う。

○委員

のらぎあやタクシーで薬を運ぶということと DX の関連は

○会長

デジタルやいろんな技術を使ってそれをやっていこうということ。のらぎあでは、どういうふうに配車していくかっていうのをおそらく AI を使って行う。なのでそういう様々なデジ

タル技術を使って今後運行していくという話になっていくと思う。

○事務局

今まきにご質問いただいたことは各論の部分で触れさせていただく予定。最初からこの事業をやりますから入ってしまうと、いったい茅野市はどういうポリシーのもとにこのような事業をやっているかということが見えなくなってしまう。

ただ、現状我々がデジタル田園特区に指定され、国といろいろ話しながら進めている事業というのは実際動いていますし、おっしゃる通りのらぎあも動いていますので、それは動きながらこのようなスキーム(基本計画)に当てはめて検証していくということになる。ただこれから市民の要望に応じて作っていくという事業に関しては、このようなルール決めをしたり、市民の意見をどう反映させるかというプロセスを経て作っていくことが良いのではないかと考えている。それでは遅いというご意見ももちろんあるとは思いますが、今走らせている事業はどちらかというと市費をほとんど使っていない事業。もちろんランニングコストは発生するのでそこは考えなければいけないが、イニシャルコストとして企業さんがコミットしていただくとか国の予算を使えるなど、そういうものを中心にやっている。それは14 ページのステップ1という部分をやっていることになる。

最終的にはステップ3の方に行きたいと思っているが、それは市費を投入して茅野市がある程度長期間にわたって腰を据えてやっていくというステージ。これをやっていくためにはそれなりの評価が必要であって、のらぎあにしても何しても一旦入れたらなかなか後に引けないというか、責任がかなり重い。しかもシステムを入れるにもそれなりのお金もかかりますので、やはり検証の時期を経て進めていく。その中で市民の論理ですとかセキュリティの担保だとかそのようなことをこのステップ1、2の間にしっかりやっておくと、そのようなことを今回の計画に明記していこうと思ってる次第。

○委員

各論の前に全体をまず考える。ただ各論がすでに進んでしまっているので、それは並行して進んでいくのではないかな。

○委員

骨子というのはバイブルなので、何かあったときには常に振り返りなさいということを最初に伝えてもらえるともっとわかりやすかった。

○委員

一番思ったのは一番最初の計画策定の背景で、DX で実現したい想いは構想なので「想い」で良いが、もっとストレートに「DX で実現する茅野市の姿」みたいな方がよいと思う。デジタルトランスフォーメーションしたらこの市がどういう姿になるのかを打ち出し、市民の人がそれを見てこれを成し遂げたら自分自身はこういうふうにできるだろうという何かイメージがわくような、想いというよりはストレートにそっちの方がいいような気がする。「想い」というと少し軽い。ただ実現したいなというだけのような気もするので、もう

少し強めに出してもいいという気はした。おそらく DX で一番皆さんがわかりたいのは、それをやったらどうなるのかという、結果としての姿を見たいと思う。そのあたりのところを書き方の問題だとは思いますが、そこは思った。

ですので、トランスフォーメーションの方が大事で、何が変革されるかというのを明確に出していくのが良い。後は各論の話になってしまうが、いろんな事業をこれを作ってやっていくと思うが、そのときに何をどういう順番でやるかというのも決めなければいけない。その時に、様々な考え方があるが、当然行政がやることなので、なるべく多くの人が使えるようなものからやるという考え方もあるが、これだったらすぐできるからとやるのもある。その順番の決め方をある程度どういう基準でやっていくかという内容もいると思う。何をやるかだけではなく、どこからやるかというのも、当然国の予算を充てることが出来るものから行うというのは一つの考え方だが、その辺りも議論がいるのかなというのは感じた。

○委員

補足をさせていただきたい。5 ページにある DX で実現したい想いと書いてあるところについては、外部評価委員会が協議会に提案させていただいて今のようなご意見をいただいてまた戻すというような繰り返しをやっていこうと思いますので、それをお伝えしたい。

外部評価委員会のみなさんとしては、基本的な考え方の中心に市で作り上げた案を評価するというのは良くないというのがあるため、こういった想いや世界観という言葉遣いになっていますが、ご意見として挙げさせていただきたい。

また、各論をどういう順番でやっていくのかというところは 13 ページが今のところ考えている優先順位の付け方の評価シートになっている。横軸が学生や労働者、高齢者とあるが、いわゆる市民の課題を持っている分野が順に並んでいる。縦に医療から子育て、防災、交流、観光、コミュニティと書いてあるのが、いわゆる社会的な機能を挙げており、市民から上がってきた課題がどこが色塗りになるのか、例えば子育て世帯のところでは防災のところの問題があるんじゃないか、交流やコミュニティのところにも関連するのではないかというようにマスがたくさん埋まったところの方が優先すべきではないかなど、今のところ試行錯誤している案がこれになる。当然ながら手順だけでなく優先順位の決め方は極めて重要な議論になるため、最終は協議会で優先順位を付けて市長に提案していく、市長がその順位で良しというのかそれより 2 番目を上にしてくれというような判断をしたうえで議会に出して、そして市費を充てるという判断を議会がするという流れになる。

○委員

国の予算を充てて事業を行えるのであれば、おそらく市民の方も良いと考える。市費を投入するときになると、当然議会などで様々な意見があると思われる。やはりそっち(市費を投入する)の方でやる時がむしろ重要なのか。

○委員

そうですね。先ほどアーキテクトがおっしゃったのは、デジタル田園健康特区で進めさせていただいているものがあるというのが、今会長がおっしゃった国が中心でやっていますというものになろうかと思う。

○委員

これからも順位関係なくそういったものがあるならば、取れるなら取ればよいかと思えます。別路線で考えていくのが良いのかと思う。

(3)部会の設置について資料 2

―部会の設置について事務局より説明―

・DX 基本計画における4つの柱のうちの「ルール作り」、「データ連携」の 2 項目については、専門的な知識を要する項目であることから、DX 外部評価委員会において専門分科会を設置し検討を進めることのできることを得ている。
そこで、DX 推進協議会にセキュリティ関連部門を担う「データガバナンス部会」を設置し検討を行っていくこととしたい。

○委員

どういう人が担当になるか。

○事務局

現在茅野市に関わっていただいている方々の中で、本日出席いただいている弁護士、健康特区の中で医療に関わる法的整理のような部分に知見のある先生、CDO 補佐官、セキュリティスペシャリストの方、理科大から外部評価委員会に入っていただいている先生方。こういった方々を中心に、まずは専門家の皆さんの案を作っていただき、それを DX 外部評価委員会の皆さんの市民目線の検討を経て、計画に入れ込んでいくというようなステップを考えている。

○会長

ご承認いただいてよろしいでしょうか。

～意義無く承認された～

4 報告事項

(1) 内閣府実証調査事業について 資料 3

―令和4年度、令和5年度内閣府実証調査事業について事務局より説明―

・令和4年度から内閣府主導によりデジタル田園健康特区に認定された茅野市をフィールドに実証調査を実施。

- ・令和4年度実施の4事業の概要および実績を報告
- ・令和5年度実施予定の6事業の概要を報告
- ・令和5年度実証調査の予算は約3億円弱

○委員

のらぎあはこの中には入っていないのか。

○事務局

のらぎあはすでに実証して実装しているため当事業には入っていない。

5 その他

- ・次回推進協議会の開催日程について
11月実施予定。詳細は別途ご連絡を差し上げる。
- ・会議資料のペーパーレス化について
ご同意いただき、次回の会より事前に資料の電子データを送付し、個人端末または事務局より端末を貸し出しペーパーレス会議とする。

○講評 アドバイザー

今回茅野市がやられていること、今年やろうとしている総論の部分というのは、デジタルはテクノロジーの一つで、そのテクノロジーが社会の在り方を大きく変えていっている中で、今まで起こったテクノロジーの変化を思い出してみると、テクノロジーと言えるかわからないが郵便制度が出来たということからもシステムや制度が大きく変わり、あるいは家に電話があるのではなく携帯電話が出来るようになるというようなことであったり、インターネットが使えるようになるということで、人々のコミュニケーションは変わり、また人とのつながり方が大きく変わっていき、社会の構成も大きく変わっていくときに、テクノロジーという中立的なものをどうやって市にとって、より良いものにしていくかという視点でテクノロジーを操っていかう、よりよい社会を作っていこうというときに、どういう構想にしなければいけないのかというところを総論で決めていくのかということ、話を伺いながら思った。

テクノロジーをこういうふうに使っていき、よりよい茅野市にしていこうということを皆さんでお話しさせていただいて、私たちの方でもバックアップさせていただいてということ、今後できればというふうに思う。

6 閉会